

あの日、中学3年生は…。

気仙沼市鹿折地区は、大型漁船が流れ着き、夜に大規模な火災が発生するなど、大きな被害を受けました。



東日本大震災の発生から、11日(木)で10年。これまでに確認された死者・行方不明者、震災関連死も含めると2万2200人にのぼります。

あのとき、中学生はどうしたのでしょうか。今回は「つなみ被災地のこども80人の作文集」に2人だけ掲載された、中学3年生の作文から考えます。

サンマやカツオなどの漁業が盛んな宮城県気仙沼市。この市立中学校は、翌日に卒業式を控えていました。

卒業式が次の日だったので学校が終わって一人で家に帰ってきていました。いつものように自分でご飯を作って食べて、テレビを見ていた時でした。(Aさん)

午後2時46分。突然、大きな揺れが襲ってきました。私は慌ててこたつの中に潜り込みました。(Bさん)

2人は鹿折中学校の3年生。ともに自宅で被災しました。Aさんは1人で、Bさんは家族7人です。

何度も繰り返し大きな揺れが襲います。その後、Aさんは防災無線が大津波警報を発令するのを聞きました。

少しすると母が帰ってきました。中学校の校庭から「早く逃げろー津波がそこまで来ているんだぞー」と叫ぶ声がしました。

中学校の校庭のすぐ下に住

んでいたAさんは、土煙を上げながら迫ってくる黒い津波を目撃します。慌てて母と校庭まで駆け上がりました。

一方、Bさんは家族で近くの公民館に避難しましたが、津波が迫ってきたため、屋上まで上がりました。そして、

自分の家がある場所を見た時、涙が出てきました。私の家になかったからです。私は本当にショックを受けました。

Bさんは翌日、水が引いたことを確認して中学校に避難しました。先に避難していたAさんは、他の中学生たちとある活

この作文が書かれたのは震災から2か月後、高校生になったからだそうです。一変してしまった「日常」の中で、中学生の発案で配られたペットボトルの湯たんぽは、きつと想像以上に温かったことでしょう。

◆ ◆ ◆
明日は卒業式。3年生は義務

動をしていました。

火をたいて水を鍋で沸かし、ペットボトルに沸かしたお湯を入れて、湯たんぽのようにして、助けられた人やお年寄りの人に配り、冷めているペットボトルがあれば、温かいものと替えました。

Bさんも一緒に活動しながら、たくさんの人から支えられていることを感じていました。

私は今まで助けてくれた皆さんと、震災後に出会ったすべての皆さんに感謝して、これからの長い人生を生きたいと思います。

教育が終了します。皆さんの進路はさまざまですが、これからの人生、あなたの言動が誰かを、そして自分を幸せにします。言動には人権の考え方が入っているからです。幸せをつないでいく、そんな人になつてく

ださい。
卒業おめでとう。